

みんなで 支え合い

地域包括ケアシステム

みなさんは「ケアマネジャー」を知っていますか？ 介護サービスを利用するとき、必ず関わりますが、意外と認知度は低く、介護が必要になって初めて知る人も多いようです。

今回は、ケアマネジャーたちの取り組みの一部をご紹介します。

介護や支援を必要とする人のサポート

ケアマネジャーは「ケアマネ」と略して呼ばれることが多いですが、正式名称を介護支援専門員と言います。介護を必要とする人やその家族と話し合いながら、その人に適したサービスや支援方法を検討し、支援計画（ケアプラン）を立てます。そして利用にあたり主治医やサービスを提供する事業者、時には地域の民生委員さんや配食サービスなどとの調整を図るなどチームの中心的な役割を担います。

互いに学び、高め合うことのできる仲間を増やす

近年の介護場面では50代の中老年のひきこもりの子ども世話を80代の親がする「8050問題」や、育児と親の介護を同時に担う「ダブルケア」など、介護に関する問題が多様化しています。複合的な支援が必要となることも

多く、医療・介護関係者だけでなく、地域、行政、民間企業など多くの職種で連携・協働し、支える仕組みが必要とされるようになりました。

筑紫野市では、介護保険制度が始まった平成12年度から、市内のケアマネジャーが集い、研修などを企画・運営する場があります。この研修の場は、ケアマネジャー同士の連携を図り研さんを積み場でもありますが、近年では介護以外の関係者との相互理解を深め、連携を構築・強化する場にもなっています。

これまでに、病院のソーシャルワーカーやリハビリ専門職、訪問看護師、医師、歯科医師、薬剤師、そして障がい者福祉の関係者など、幅広い職種との「顔の見える関係づくり」を大切にしながら取り組んできており、その効果は徐々に広がっています。

介護を必要とする人が安心して在宅生活を継続できるように、今後もコツコツと積み重ねていくことが大切です。

意見交換による
気付きも多く
有意義だった

相談しやすい
関係づくりの
大切さを感じた

本音で相互に
話し合えたのが
良かった！



1人の100歩より、100人の1歩！
まずは、お互いの仕事や役割を知り、
尊重する姿勢を大切にしています

このように、既存の活動やつながりを大切にしつつ、地域に関わるさまざまな人や団体ができる範囲で支え合う、まちづくりが広がっていく姿は、まさに地域包括ケアシステムであり、市でもこのような取り組みが広がるよう努めています。

● 問い合わせ先 高齢者支援課